

新変種「フクイカサスゲ」について

渡 辺 定 路

このスゲを私が最初に採集したのは1973年5月下旬、美浜町新庄に一人で採集に行ったときのこと、新庄から奥部落に行く途中の道路横にカサスゲの群落があり、その中に果序の枝が円錐状に分枝する型のものが相当あったので、これは新しい品種ぐらいにはなるのではないかと思ひ採集し、標本にして11月下旬ぐらいまで放置しておきました。

11月下旬になって今年度の標本の整理にかかり、このスゲを解剖顕微鏡で見ると果胞に毛が相当密生しているので驚き、これはと思ひスゲの第一人者であられる大井先生に標本(№12474)をお送りしたところ「キンキカサスゲの果胞に毛のある変種と存じます。果序の枝が円錐状に分枝するのは一種の奇型で大事なことではないと思ひます。新しい変種として報告するにはこのような奇型でない正常品がよいので、正常型の標本を送って頂くか、または、春になったら正常型のもを採集して送って頂きたい。また学名は*Carex persistens* Ohwi var. *watanabei* Ohwi とし、和名は『フクイカサスゲ』と致したい。」とのご返事がありました。1974 3/1

スゲと同時に送りしたゴメグサの同定のご返事に「№12474の標本でキンキカサスゲはカサスゲとは別種であることがわかりました。また、フクイカサスゲの雄穂をはっきり知りたいたので雄穂の明瞭なものを採集してほしい。」と書いてありました。

1974年5月中旬に新庄に採集に行き、雄穂のある少し若い標本を取り、標本(№12931)を大井先生にお送りしましたところ、「№12931をtypeとし、フクイカサスゲはキンキカサスゲの変種として日本植物誌の追加分で発表するつもりです。また敦賀から東の方はフクイカサスゲの型かも知れません。」とのご返事がありました。6/28, 以上がtype標本、学名、和名決定までの経過です。

1974年5月中旬の採集の時に松屋、粟柄谷方面のカサスゲを採集しましたがフクイカサスゲはありませんでした。また6月中旬に新庄から奥部落の奥の方まで雨の中を谷川に沿って調べたところ、谷川に沿ってフクイカサスゲが点在していることが確認されました。武生市新保町のカサスゲそのものでした。現在までのところ、新庄から奥部落への谷川沿いにしか自生していません。今後皆様方のご協力によって分布を確認していきたいと思ひます。

キンキカサスゲは大井先生が1930年に独立種として、*Carex persistens* Ohwiとして発表されましたが、1942年に大井先生はカサスゲの変種*Carex dispalata* Boott var. *takeuchii* Ohwi とされました。

—— カサスゲとキンキカサスゲの相違点 ——

カサスゲの柱頭は脱索性であるが、キンキカサスゲの柱頭は細くて宿存し、果胞より長く果胞は直立ぎみである。

カサスゲはシベリア東部・満州・中国・日本（北海道から屋久島）に分布。
キンキカサスゲは本州特産で，信濃南部，越前以西の近畿・中国地方に分布。
（武生高等学校）